

日本丸

1582年に織田信長が死去した後、九鬼嘉隆は信長の後継者である豊臣秀吉（1537-1598）に仕えました。信長は嘉隆に敵を撃破できる船の建造を指示したのに対し、秀吉は1592年に予定されていた朝鮮出兵のために完全に新しい艦隊を設計するよう求めました。

その結果造られた旗艦は、当時の他の軍艦をはるかに凌駕する巨大なものでした。全長約30メートル、全幅11メートルのこの船は、100挺の櫓が備わっていました。嘉隆はこの船に「鬼宿」（かに座を構成する星のうち4つを指す言葉）と命名して秀吉に献上しましたが、その大きさに感銘を受けた秀吉は、この船は日本全体を代表するにふさわしいとして、「日本丸」と改名しました。日本丸は秀吉の艦隊の他の船の原型となりました。

日本丸は江戸時代（1603-1867）に廃船・解体されました。残存しているのは光岳寺に保存されている板戸絵を含め、ごくわずかな部分のみです。